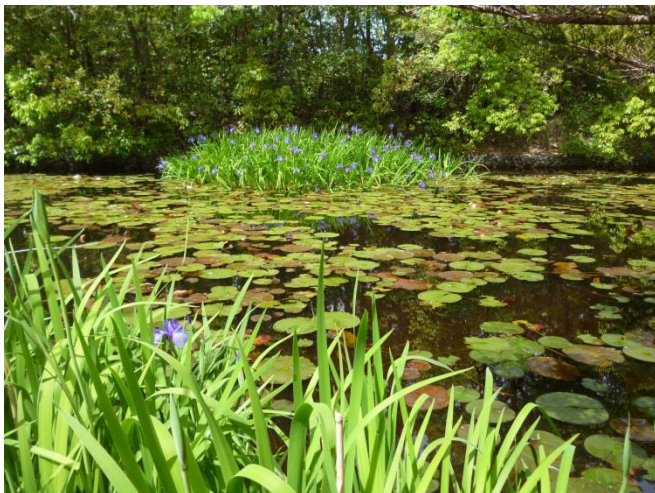


2020 佐紀路カメラ散歩---第一回 / 磐之媛陵



かきつばたが満開



NPO 共生学舎があるところから三叉路の南側の奈良西の京斑鳩自転車道を西に歩くと航空自衛隊幹部候補生学校の裏を通り鬱蒼とした森を過ぎると右手に磐之媛陵が現れます。磐之媛陵は鬱蒼とした木立ちにおおわれ、それが水面に映えて美しい墳墓です。長さ 219 メートル、後円の直径は 124.5 メートル、高さ 16.2 メートルで、前方部分の幅は 145 メートル、高さ 13.6 メートル。まわりに二重の周濠があります。

磐之媛は、仁徳天皇の皇后で、万葉集では歌人として、古事記でも下巻の冒頭を飾る物語の主人公として出ています。この物語は、磐之媛の嫉妬物語で、仁徳天皇が愛した女性にはげしく敵意をもやして足をばたばたさせて嫉妬したと記されています。

*君が行き、日長くなりぬ、山尋ね、迎へか行かむ、待ちにか待たむ(万巻 2-85)

*ありつつも、君をば待たむ、内なびく、我が黒髪に、霜の置くまでに(万巻 2-87)

仁徳天皇が八田の若郎女を愛すると磐之媛は宮を出たまま帰らず、木津川のほとりの筒城にとどまって仁徳天皇がつれ戻しにきてもきかなかつた。そして平城山に至って故郷(葛城)をしのぶ歌を歌いました。

*つぎねふや、山代川を、宮上り、わが上れば、あをによし、奈良を過ぎ、小盾、倭を過ぎ、わが見がほし国は、葛城高宮、我家のあたり(古事記下巻) 磐之媛はついにこのまま没してこの地に眠っています。